

# 指導ツールとしてのタブレットPC授業活用300時間

## ータブレットPCを活用した英語科の授業実践ー

愛知県小牧市立光ヶ丘中学校 教諭 原 勝 己

キーワード：少人数学習，タブレットPC，デジタル掛図，遠隔操作

### 1 使っているタブレットPCってどんなの？

タブレットPC（写真1）とは、A4サイズのプレート状のコンピュータのことです。データが保存してあるコンピュータ本体と無線で繋がっていることと、教材オーガナイザー（DeTeMO）のおかげで、教室内を移動しながらペンタッチで遠隔操作ができます。プロジェクターを通して投影されるデジタル掛図には、保存データである教科書の各ページの英文や絵と同じものが表示されます。（写真2）これら必要な機器は、授業を行う特別教室に常設されており、教科書など教材だけを持って行けば、すぐに授業ができるようになっています。準備は簡単で、5分もあれば十分に立ち上げまでできます。機器は電源が繋がった状態で、すべて移動式の収納庫に納められています。それを開けて、プロジェクターのスイッチを入れた後、タブレットPCを順に立ち上げていけば、黒板に設置されたスクリーンに教科書の学習するページが投影される仕組みになっています。



写真1 タブレットPC

### 2 どのように英語の授業で活用しているの？

2年生の英語科の少人数学習の中で活用しています。本校の少人数学習は、基礎と発展の2つにクラス分けをしています。基礎クラスは、理解不十分な生徒を対象に人数を15人前後にしぼり「読む・書く」の学習を中心に進めます。私はこの基礎クラスを4つ担当し、その授業の中でタブレットPCを操作しながらデジタル掛図を活用して授業を行っています。私だけで、年間400時間ほど使っていますが、他の英語科教師はもちろん、英語科以外の教科でも活用しています。



写真2 投影風景

活用方法ですが、このデジタル掛図を授業の全ての場面で使っているわけではありません。使用教科書NEW HORIZON「東京書籍」の各UnitのStarting OutやDialog、そしてReading for Communicationの指導では、最初に新出文型の導入を図り、その理解や練習を行います。その際は、板書とともに手作りのカードを使い、従来通りの授業形態をとります。その後、デジタル掛図を使って、本文の理解や音読の練習、そしてT or FやQ & Aの学習を行います。要するに、IT機器を導入することで、授業展開が今までと変わってしまうわけではなく、それをうまく取り込んでアナログとデジタルを併用しながら授業を行います。

### 3 使うにあたって工夫したことは？

デジタル掛図の大きな利点は、教科書の各ページがそのまま大写して投影されることから、全員をスクリーンに注目させて授業を進めることができることです。したがって、出来るだけ教科書を開かないように指導しています。当然のごとく、基礎クラスでは英語の理解が不十分な生徒が学んでいるので、音声だけの指導は難しく、英単語や英文を示しての指導が必要になります。その点、デジタル掛図では、練習したい英単語や英文の色がペンタッチで黒から青に反転して音声流れるため、今どの英単語やどの英文を読んでいるかが明確になり、基礎クラスの生徒にとって理解しやすいツールと言えます。音声情報だけでなく、映像という視覚的情報も同時に得ることができ、生徒が理解する上で大きな助けとなっています。（写真3）

また、持ち運びが可能というタブレットPCという特性を生かして、一定の場所に留まることなく、生徒の活動に目を配りながら必要に応じて教室を移動し遠隔操作をしています。特に音読練習では、生徒たちの中に入って操作することで、音読のつまづきが把握しやすく、同じ単語や文を繰り返し練習させるのにとっても便利と言えます。



写真3 授業風景

### 4 使ってみての感想は？

アンケートを実施したところ、多くの生徒が「デジタル掛図を使った授業は分かりやすい」と答え、「文字が大きくて見やすい」、「英文や英単語の色が反転するので発音が分かりやすい」、「教科書と同じなので、どの部分を説明しているか分かりやすい」などが主な理由でした。このように好意的な意見が多い中、「つい教科書を見てしまうので必要ない」とか、「光線の加減で光って見づらいことがある」の他に、「英文の音読が速すぎて聞き取れない」といった意見もあり、活用するうえでまだまだ改善の余地があるようです。

最後に、とかくIT活用というと、今までの自分の授業スタイルが大きく変わってしまうのではという不安感や抵抗感があります。しかし、IT機器に合わせるのではなく、自分に合わせて少しずつ使っていけば、気楽にIT活用授業ができるのではないのでしょうか。